

農業を
職業に!

みやぎの農業・新規参入農業者事例集2014



私の新規就農 自立へのステップ

土地、資金、
住宅の確保

実践研修

ビジョン作成

就農を決断!

就農相談、
情報収集、
体験



宮城県新規就農相談センター

農業を職業に！

農のあり方は様々。

- ① 独立就農を目指す人
- ② 農業法人へ就農する人
- ③ 農的暮らしや自給自足的農業を目指す人 など…。

「農業をやりたい！」と思ったら、まずは、あなたの自分にあった農業スタイルを確認しましょう。

農業を職業とし、「独立就農」することは、「起業」することと同じです。

つまり、独立を目指す産業界（農業業界）のことを、栽培のみならず流通、販売まで入念に調べ経営ビジョンを明確にし、資金を準備、土地の取得や必要な施設や機械や資材をそろえ、技術や資格を取得し、事業を開始する。独立後も黒字経営になるまでの生活資金も必要です。

また、起業するには、リスクも考慮し、心構えと強い意志と決断力が必要です。

ここに、農業に意欲をもって挑んだ先輩就農者の事例を紹介し、農業を志す新規就農希望者の皆さんの参考にしていただければ幸いです。

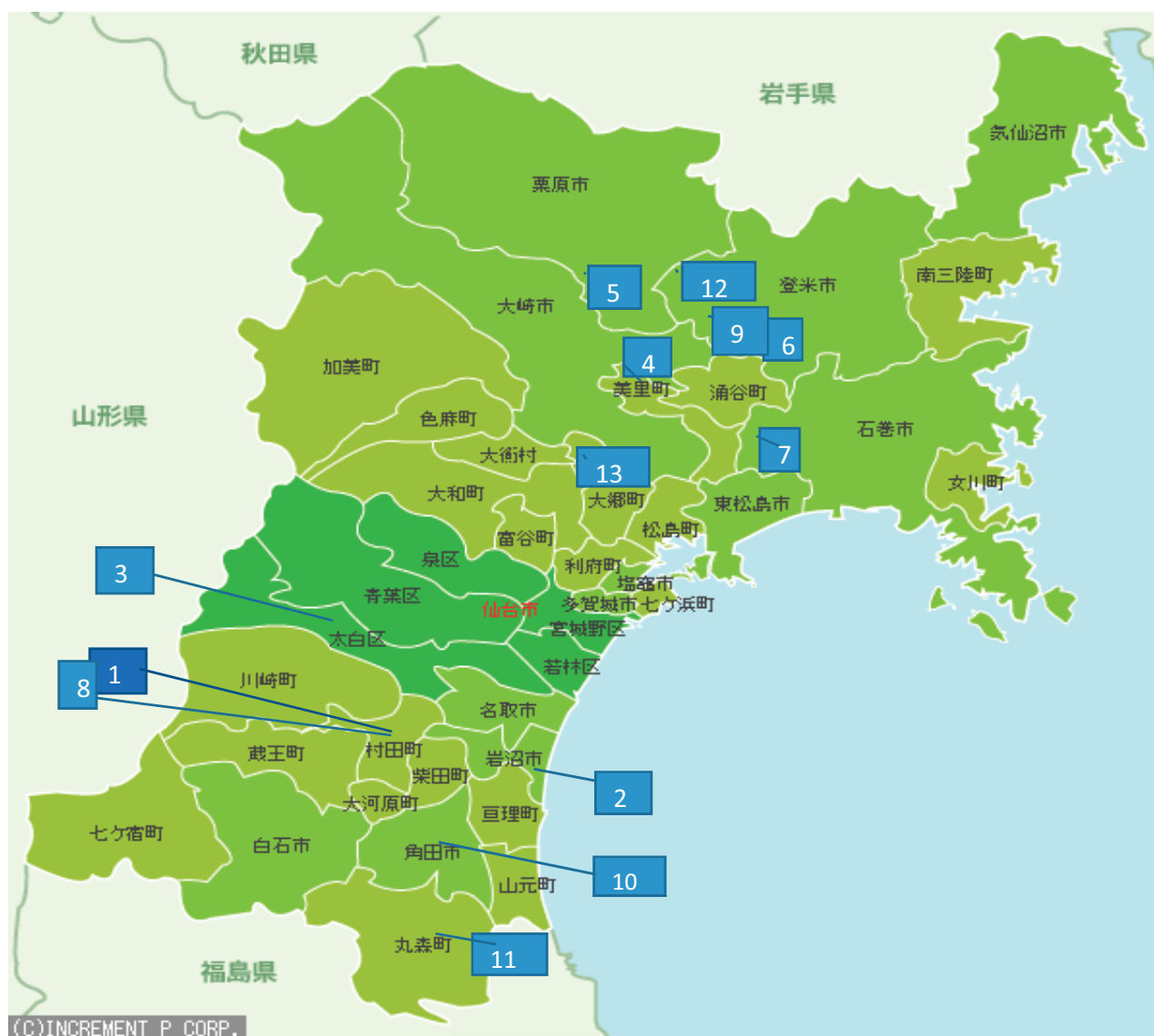
最後に、このパンフレットを発行するにあたり、ご協力いただいた農業者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成27年2月

公益社団法人みやぎ農業振興公社
理事長 高橋 正道

※『宮城県新規就農相談センター』は、宮城県内に就農する方の相談窓口で、
（公社）みやぎ農業振興公社と宮城県農業会議が位置づけられています。

● 事例紹介者マップ ●



C O N T E N T S

I 独立自営就農

①村田町	中山 建	1
②岩沼市	田村 啓太郎	3
③仙台市	渡辺 重貴	5
④美里町	ブシャン・アケボノ	7
⑤栗原市	白鳥 翔	9
⑥登米市	泉田 和美	11
⑦石巻市	亀山 晴央	13

II 独立自営就農・研修受入農家

⑧村田町	鹿股 国弘	15
⑨登米市	久保 寛達	17
⑩角田市	三浦 徹	19
⑪丸森町	鈴木 学	21

III 農業法人に就農

⑫登米市	(有)伊豆沼農産 佐藤 耕城	23
⑬大郷町	(有)大郷グリーンファーマーズ 松野 剛明	25

参考資料	27
------	----

一生をかける仕事として、農業を選択！



プロフィール

- 出身地：宮城県仙台市
- 就農時期：2012年（当時30歳）
- 就農前の職業等：
宮城教育大学を卒業後、WEB制作会社、印刷・広告会社勤務を得て農業を志す。
- 家族構成：本人、妻、2匹のうさぎ

1. 就農の動機

業績主義・組織の駒として働く会社勤務の頃、先輩や同僚から「悪い仕事じゃないけど、一生続ける仕事ではない。」という言葉をよく聞かされました。日に日に、自分で自分の仕事をしてみたい！という想いが強くなり、では、一生続ける仕事とは？と考えた時、父の実家の農業の様子が浮かび「農家になろう！」と決めました。就農する2年前の事でした。



2. 就農準備 ～まずは、家族の同意が不可欠です。

就農するまでも、就農してからも様々なハードルがあります。その時一番の味方になる家族の同意すら受けられないのであれば、諦めた方が良いと思います。私はまず妻に、そして両家の両親兄弟達にプレゼンを行いました。

①地域決定理由

消費地仙台市にも近く、交通の便が良いことと研修を受けた農家が村田町だったので、村田町に決めた。研修先と就農地は、同じか近隣市町村がベスト！

②研修

研修先は県内いろいろ見学したが、「みやぎ農業見聞のつどい」バスツアーへ参加した時、視察農家村田町のボンディファーム鹿股さんに感銘を受け、1年間の研修を依頼した。

③資金～お金は節約

資金は、自己資金300万円と研修期間、営農開始時期に就農支援資金等借入金350万円を準備。

自己資金は、生活費で最低300万円は必須。借入金は、設備投資や借家のリフォームに充当。できるだけ新品は購入せず、中古の機械や資材を探した。

④農地・住宅～地域への浸透・誠意

農地を借りられるのは、農家か「認定新規就農者」のみ。認定を受けるには、就農計画を提出し申請するが、少量多品目栽培のため、この収支見込みや収量見込みの作成に一番苦労した。

町の協力を得て、農業委員の皆さんに自己紹介資料を配付し、本気で真面目に協力を依頼。土地と住宅の情報を得て取得した。



3. 現在の経営概要と特徴

①主な作目と栽培面積

露地畑：120 a
栽培品目：野菜全般を約100品目

②主な保有施設・機械

●育苗ハウス 1棟 ●軽トラック 2台
●トラクター 2台 ●管理機 2台

③労働力：本人のみ

④販売先：飲食店15店舗（5割）＋個人の宅配25戸（5割）

⑤特徴：

「1. 無農薬・無化学肥料 2. 固定種・在来種重視 3. 少量多品目」→手間暇かけて、じっくり育て、環境に優しい農業の実践。自称、雑草農法！

詳しくは、ホームページ「自然農場 風天」で検索を！

4. 経営を開始しての感想

★仲間や地域の人との交流を大切に！

- ①人の都合で働かず、自分と作物の都合で働くので、理不尽なストレスがない。
- ②野菜の生理(生育適温など)や病虫害の勉強が足りなかった。反省。
- ③就農当時は、わからないことだらけ、こんな時、仲間や先輩の声は心強いもの。仙南4Hクラブやこせがれネットワーク等仲間との交流や就農前から加入している「せんだい食農交流ネットワーク」での活動が、農業へのモチベーションを高めている。

5. 新規参入希望者へのアドバイス

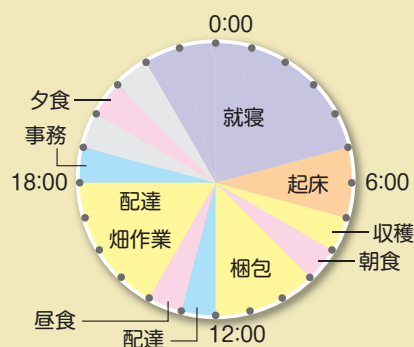
就農のポイントの1つ販路の確保は、独立前から取り組もう。また、研修に入る前から「名刺」を持ち歩き、会う人に配り情報を集めました。機会があれば、先輩農業者の失敗事例も聞くことも大切です。

また、間違った先入観に注意！

- ①農家なら面倒な人付き合いなし？
- ②大自然の中で働きたい？
- ③晴耕雨読、スローライフ？…とんでもない誤解。

就農前の社会人経験は、できれば3年以上経験して、自分の売りを得ておくその後で必ず役に立ちます。

一日の生活スタイル



年間の主な農作業スケジュール

月	作業
1月	機械メンテナンス 作業場整理など
2月	春作
3月	播種・育苗・定植
4月	
5月	
6月	
7月	
8月	秋作
9月	播種・育苗・定植
10月	
11月	
12月	

人生の
軌跡

決意 28歳
会社を退職

研修 29歳
自然循環型
農業研修

就農 30歳
村田町へ
移住

現在 32歳

祖父と一緒に農業の道へ！



プロフィール

- 出身地：宮城県岩沼市
- 就農時期：2011年（当時29歳）
- 就農前の職業等：
大学を卒業後、資格取得を目指しながらアルバイト（引越業や飲食店など）勤務。
- 家族構成：本人、母

1. 就農の動機

農家では無いので、職業として農業を考える事はありませんでしたが、祖父の知り合いの農家のタラの芽やキャベツの栽培を手伝いに行った事がきっかけで、「(本気で) 農業やってみたら?! 農業改良普及センターで新規就農も指導しているよ。」と話を聞いたのが農業への道の始まりでした。



2. 就農準備 ～農業改良普及センターを頼りに。

生まれも岩沼市で、周辺には農家や畑があったので、農業は身近にあり、祖父の家でも農家から畑を借りて家庭菜園をしていました。自分も、小さい頃から、花を育て、土いじりが好きだった事もあり、農作業を楽しく感じ、農業が自分に合っているのかなと思い決意しました。

①就農相談から開始

普及センターでは、作目選定や営農計画までアドバイスを受け、市やJAなど、関係機関へ橋渡しをいただいた。

技術研修は、特にしておらず、近隣の農家や地元の種苗店から教えてもらいながら就農準備を開始した。

②農地取得

農地は、震災後でもあり、地元で働きたい! 想いと、厳しいけれど有言実行で尊敬できる祖父の協力もあり、近隣の高齢で農業を縮小した農家から農地とパイプハウスを借りることができた。

機械類も、知り合いの農家から中古で譲り受け、初期投資を抑えた。

③資金

資金は、ゼロからの出発だったため、資材やタネ代などは、お店の好意で後払いにいただいた。その後、平成24年(2012年)に始まった青年就農給付金(開始型)を市に申請し、150万円の給付を受け、運転資金に充てた。



3. 現在の経営概要と特徴

①主な作目と栽培面積

露地畑：120 a

施設野菜：1,100㎡

栽培品目：キャベツ、ブロッコリー、ちぢみ雪
菜、ほうれんそう、トマト、レタス、
いちじく 他

②主な保有施設・機械

●パイプハウス 5棟1,100㎡

●軽トラック 1台

●トラクター 1台

●管理機 1台

③労働力：本人、祖父（ときどき母、妹）

④販売先：地元スーパー直売（2割）＋岩沼青果市場（8割）

※今後、農協出荷開始予定。

⑤特 徴：

●キャベツを中心にした栽培体系

●直売をによる消費者重視を信条にしているので、美味しい品
種を選んでいる。

4. 経営を開始しての感想

★応援してくれる友人や
ご近所の皆さんに感謝！

①出来上がった野菜をお礼に配り、喜んで頂けるのが一番嬉しい！

②思った以上に、農機具や肥料が高く、経営的に厳しい。

③初年目は、猛暑で水やりが大変なうえ、安値で大変だった。

④体力的には自信があったが、定植作業で（長靴を履いていたのに）足の裏をやけどしてしまったのには苦笑い。

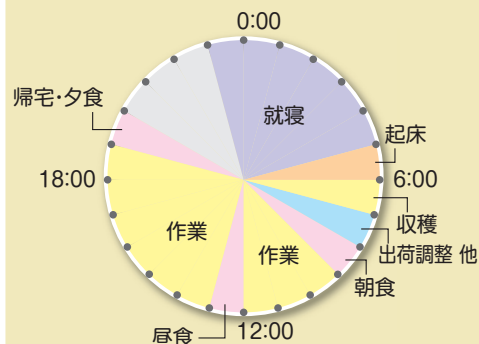
5. 新規参入希望者へのアドバイス

露地栽培だけでは、天候による被害や価格の変動が大きいので、ハウス栽培を取り入れ、早出しなどを取り入れる必要がある。

土壌分析や簿記記帳など、普及センターには、就農後もいろいろとアドバイスを頂いています。

また、周囲の農家とのつきあいは、非常に大事！わからない時は教えてくれます。年代を超えたおつき合いが大切です。

一日の生活スタイル



年間の主な農作業スケジュール

月	作 業
1月	キャベツ収穫
2月	キャベツ収穫
3月	キャベツ収穫
4月	トマト定植
5月	
6月	トマト収穫
7月	トマト収穫
8月	キャベツ定植
9月	キャベツ定植
10月	
11月	
12月	キャベツ収穫

人生の
軌跡

決意 28歳
農業体験

就農準備 29歳
農地探し

就農 30歳

現在 32歳



プロフィール

- 出身地：宮城県仙台市
- 就農時期：2006年（当時34歳）
- 就農前の職業等：
海外ボランティア活動を経て有機農業に出会う。その後、帰国し食品会社に勤務。
- 家族構成：本人、妻、長男、長女

1. 就農の動機

国際協力のNGO（海外ボランティア）活動を通して有機農業に出会いました。

自分でまいたトウモロコシが、ぐんぐん育つ姿を見ながら穂ったトウモロコシを畑で生かじりした時の感動が農業に関わりたいと思ったことのきっかけでした。



2. 就農準備 ～32歳！最後のチャンスと決断する。

インドネシアで1年のNGO活動、アメリカで2年農業研修を実施後帰国した。一度は、会社に勤務しましたが、農業への想いが日に日に大きくなり、一念発起して就農を決意しました。

①研修・地域決定理由

有機農業で独立を目指し、仙台市秋保の大滝自然農園佐藤氏のところで2年間の研修を受け、研修先から近くの条件の良い農地の紹介を受けたため、秋保に決定。

②農地

農地は、道路の条件も良く以前は大根畑であったが、遊休農地で柳や蔓などが茂り、開墾からスタート。

カラス、熊、サル、イノシシもよく出現するところ。

③資金・住宅

- 資金は、研修期間に青年就農支援資金（12万円月）を活用。また、就農時に親から200万円借金して、初期投資と1年目の生活費にあてる。
- 住宅は、今も通勤農業。農地と自宅（仙台市内）の間が農産物の納品、配達先なので都合が良く苦になりません。
- 通勤農業ではあるが、地域のつきあいは大切で、あいさつと世間話は欠かせない。畑は（草で）荒らさないことも非常に大切。



3. 現在の経営概要と特徴

①主な作目と栽培面積

露地畑：140 a
施設野菜：450㎡
栽培品目：多品目の有機野菜 約70品目

②主な保有施設・機械

●パイプハウス 3棟450㎡
●軽トラック 1台 ●トラクター 1台
●管理機 3台

③労働力：本人、雇用（1人）

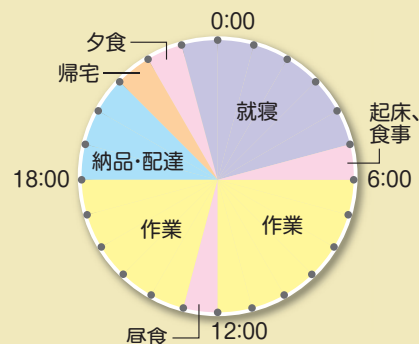
④販売先：宅配（4割）＋有機専門店（3割）＋直売所（3割）

- 一般家庭60戸 ●無農薬野菜専門店や自然食品店
- あいコープ ●J A仙台直売所たなばたけ
- インショップ店

⑤特 徴：

- 農薬や化学肥料を一切使用せず、多品目の野菜を栽培し、こだわりの消費者や業者に販売。「くまっこ農園」開業。
- 有機農業を開始するにあたり、志が大切と考え「健康」「環境」「つながり」を大切にした農業の実践を目指している。→「秋保ゆうきの会」活動。会員7名。

一日の生活スタイル



年間の主な農作業スケジュール

月	作 業
1月	↑ 囲い野菜出荷
2月	↓
3月	育苗・土づくり
4月	露地種まき
5月	夏野菜定植
6月	葉物 かぶ・大根出荷
7月	↑ 夏野菜出荷
8月	↓
9月	↑ 秋冬野菜出荷
10月	↓
11月	↓
12月	保存用野菜囲い

4. 経営を開始しての感想

★忙しさも楽しんで！

- ①忙しくて仕事だけの毎日ですが、好きな仕事なので充実しています！
- ②就農時から鳥獣害対策に日々悪戦苦闘。これをさぼると全滅もあり！
- ③作る人と食べる人の良い関係をつくり、心身共に健康生活を応援しています。

5. 新規参入希望者へのアドバイス

田舎暮らし（スローライフ）では、食べて行けない！

サラリーマンの2倍働く位の覚悟で、（農業に）入って来てください。

人生の軌跡

決意

32歳

会社を退職

研修

32・33歳

仙台市秋保へ

就農

34歳

震災

39歳
風評被害で
(県外顧客の
キャンセル)

現在

42歳

県内個人
顧客の増加

🍆
日本は、夢を叶えてくれる国！



プロフィール

- 出身地：インド ニューデリー
- 就農時期：2013年（当時22歳）
- 就農前の職業等：
父の仕事により、中学時代に家族で仙台市に移住。宮農高、宮城県農業大学校を卒業し、就農する。
- 家族構成：本人、父、母、兄、妹、愛犬

1. 就農の動機

カレー店を営む父の影響で、「料理人」になるのが子供の頃の夢でした。自分で食材も作れたら楽しいだろうな？！と考え、先輩の勧めもあり、宮城県農業高校に進学。そこで、農業に触れ「食の大切さ」と小さなタネから野菜ができる驚き、「作る大変さ・楽しさ」を知り、さらに、農業の知識を深めたくなり、宮城県農業大学校へ進学しました。



2. 就農準備 ～夢を持つこと・夢を口にする～

日本に来て学生時代から就農するまで、自分の夢（次の目標）を人に話すことで、いつもサポートしてくれる人が現れ、その人々の協力を得て、就農することができました。

私には単身インドから日本に来て、カレー店を開業した尊敬する父がいるので、日本語もわからないゼロからのスタートでしたが、自分にも必ずできると信じて取り組みました。

①研修・地域決定理由

農業大学校時代に40日間のホームステイ研修を受けた美里町でたくさんの人と出会い、とても気に入って、ここで農業をしたい！と決めた。

農業大学校では、トラクターやけん引の免許、食品衛生管理士資格など、就農に必要な資格を積極的に取得。また、在学中に出会った有機野菜に感動。卒業後、1年間色麻町の有機野菜農家和田さんのところで研修を行った。

②農地・住宅

家族で美里町に住むことを決め、まず住宅を探した。ネットで農家の空き中古物件を見つけた。

農地については、なかなか貸してくれる人が見つからなかった。

そんな時、自宅近くに住む農業委員さんから声をかけて頂き、農地75a（内パイプハウス2a）を借りることができた。

また、普及センターからアドバイスがあり、就農計画をたて、県の認定を受けた。

就農後も、農業委員さんからは、いろいろなアド



バイスを受け、助けていただいている。

③資金

経営開始時に、就農施設等資金を借入、機械やパイプハウス等の導入を行った。

経営開始後は、青年就農給付金（開始型）の給付を受け、運転資金等に活用している。

3. 現在の経営概要と特徴

①主な作目と栽培面積

露地畑：75a

施設野菜：497㎡

栽培品目：多品目の有機野菜 約20品目

②主な保有施設・機械

●パイプハウス 4棟497㎡

●軽トラック 1台 ●トラクター 1台

●管理機 1台 ●掘取機 1台

●ロータリーマルチ 1台

③労働力：本人のみ

④販売先：飲食店*（5割）＋個人消費者宅配（4割）＋イベント直売（1割）

※仙台・多賀城・大崎市のレストラン

⑤特徴：

お客様と顔と顔を合わせて販売！

●農薬や化学肥料を一切使用しない有機野菜を栽培。

●対面販売を重視している。お客様から農業以外の情報や販売した農産物の感想や料理法を教えてもらえるし、野菜ができるまでの畑の様子を話すことができるから。

4. 経営を開始しての感想

～星のきれいな美里町が好き

①就農後は、JAの女性部やフレッシュミズに所属し、地域の活動や行事にも積極的に参加し、自然に地域にもなじむことができた。

②雑草管理が非常に大変なため、今後の課題。

③今後は取引先のレストランのためにも、一定量を常に収穫できるような主力商品にも取り組んでいきたい。

5. 新規参入希望者へのアドバイス

★自分のためだけでなく誰かのために！

目標は、「25歳までに農家レストランを開くこと」。

農地を拡大し、雇用をつくり、自分のようにやりたい人が、気軽に農業ができる仕掛けを考えています。

年間の主な農作業スケジュール

月	作業
1月	
2月	
3月	じゃがいも播種
4月	↑ トマト定植
5月	↓
6月	↑ じゃがいも・たまねぎ収穫
7月	↓ トマト収穫
8月	↓
9月	タマネギ播種
10月	ニンジン・ほうれんそう播種
11月	タマネギ定植
12月	ニンジン・ほうれんそう収穫

人生の軌跡

決意

18歳
農業大学校に進学。
有機農業に出会う。

研修

21歳
美里町に移住。

就農

22歳
農地取得。

現在

23歳



農業はやり方次第！ 自分で作る・売る農業の魅力！



プロフィール

- 出身地：宮城県栗原市
- 就農時期：2012年（当時24歳）
- 就農前の職業等：
高校卒業後、金型製造会社に勤務する。その後、父が行っていた造園業に従事する。
- 家族構成：本人、父、母、祖父、祖母

1. 就農の動機

造園業仲間に、菊を栽培している農家が出て、その話から「自分の力で土を起こし、そこから作物を収穫・販売することができること」「やり方次第で高収入を得ることができること」など、農業はやりがいのある仕事だと思い、就農を決めました。



2. 就農準備 ～新たに菊栽培へ挑戦！

我が家は、水稲単作（40a）と造園業（芝張り工）の経営で、稲以外の作物の栽培経験は無く、新しく自分の部門を開始したい！と考えました。

①地域決定理由 ～地元で頑張りたい

地元高清水の農地が荒れて行く姿を見て、自分で何かしたかった。今後の需要も期待でき、地域ではまだ栽培が少ない菊栽培をやってみたいと思った。

②研修

研修は、実家の畑で農業改良普及員からマンツーマンでの指導研修を受講した。研修では、菊の生理生態（小菊、スプレー菊含む）から栽培管理のみならず、簿記記帳や県内の先進農家の見学、管内の農業の現状と幅広く学ぶことができた。

農薬の種類が多く、タイミングや使い分けを覚えるのに、一番苦労した。

③資金

まずは、初期投資を抑えるため、露地栽培から開始。資金は、就農計画の認定を受け、研修時に就農研修資金120万円を利用した。

④農地 ～作物に合った土壌の選定

農地は、当初、雑種地を開墾して畑にしようと考えていたが、山土のため、強酸性で、親株を植えたところ全滅してしまうという大失敗を経験した。

借地の利用に変更し、利用していない畑を探した。幸いに、地主さんが知り合いだったこともあり、直接交渉し、了解を得ることができた。



3. 現在の経営概要と特徴

①主な作目と栽培面積

露地畑：30a
栽培品目：小菊
(内3aは、輪菊とスプレー菊)

②主な保有施設・機械

●動力噴霧器 1台
●管理機 1台

③労働力：本人＋母

※父は、別途野菜部門（ほうれんそう）開始。

④販売先：市場出荷（札幌、青森、埼玉）7割。直売所：3割。

- 市場は、予約販売のため単価も安定して売ることができた。
- 直売は、農業資材店の地元支店での販売に加え、近隣市町村の店舗への出荷要望があり拡大している。
- 近所からもお盆やお彼岸向けに注文をいただき、新鮮さが喜ばれた。

4. 経営を開始しての感想

★感動の初出荷！

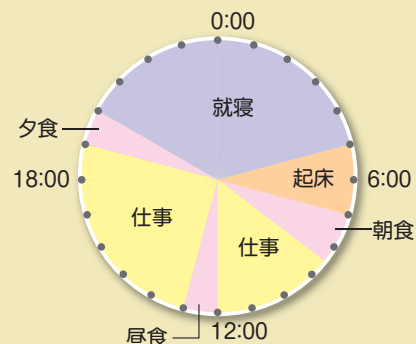
農業経験が全く無かったので、研修を開始した時は、「定植をして収穫をするだけ」の単純な作業だと思っていた。

しかし、実際に始めて見ると、自分が考えていた以上に大変でした。収穫作業も、早朝から夜遅くまで掛かりそれでも追いつかなくて、失敗の連続だった。苦労をした分、手間をかけて育てたものが目に見える形となり、売れたときは、とても嬉しく、何とも言えない充実感を味わいました。

5. 新規参入希望者へのアドバイス

農業は、大変なことも多い仕事です。けれど自分が育てて、それが売れる事の嬉しさや自分で自由に計画できる楽しさがあり、とてもやりがいのある仕事です。固定給ではなく、努力次第では収入を増やせる職業です。

一日の生活スタイル



年間の主な農作業スケジュール

月	作業
1月	育苗
2月	
3月	ほ場準備
4月	定植
5月	
6月	
7月	
8月	出荷
9月	
10月	親株伏せ込み
11月	
12月	

人生の軌跡

決意

21歳
親の造園業
手伝い

研修

22歳
新規部門
へ挑戦

就農

23歳
露地菊
栽培20a

現在

25歳
露地菊
栽培30a

地域の農業者に魅せられて！



プロフィール

- 出身地：宮城県登米市
- 就農時期：2012年（当時24歳）
- 就農前の職業等：
高校を卒業後、金属製造会社に3年間勤務する。
- 家族構成：本人、妻

1. 就農の動機

全くの農業とは縁がありませんでしたが、和太鼓の仲間から新規参入でトマトの養液栽培をしている人がいると聞き、農業に強い関心を持つようになりました。



2. 就農準備

研修先となる久保さんと知り合い、農業やトマトの栽培に関する話を聞き、ものづくりの大変さややりがいを話す久保さんに魅力を感じ、自分もやってみたい！と思い就農を決意しました。

① 地域決定理由 ～目標に向かい仲間入り！

地元の農業者の方々と話をするようになり、施設園芸で安定してトマトを生産し、販売する。「登米とまと」をブランド化していきたい！という想いに心を打たれ、一緒に取り組んでみたいと思ったから。

② 研修 ～栽培のみならず販売も研修

研修中は、雇用の形で当初は、1年間の予定で研修に入ったが、研修終了の3月に東日本大震災が発生し、就農準備が進まず、研修先に2年間お世話になった。

研修では、「栽培技術は一通り修得できるが、どのように販売するかが大事だ！」と、その日収穫したトマトを、飛び込み営業で販売することも経験した。

③ 資金・施設・農地 ～遊休農地・ハウスを活かす！

施設園芸は、ハウスや栽培システムにかかる初期投資が大きいので、使っていない施設を探し歩いた。幸いに、市内の農業委員を務める人から休んでいた農地50aと600坪の鉄骨ハウスを借り受けることができた。

鉄骨ハウスの改修やシステム導入には、就農施設等資金と登米市の園芸産地拡大事業を活用した。

就農時に、青年就農給付金制度がスタートし開始型を受給している。



3. 現在の経営概要と特徴

①主な作目と栽培面積

鉄骨ハウス：20a
栽培品目：トマト（大玉）

②主な保有施設・機械

●ロックウール栽培システム 一式
●防除機 1台 ●軽トラック 1台

③労働力：本人+妻+パート1名

④販売先：JA市場出荷8割。直売所（道の駅など）2割。

⑤特徴：スーパーがメイン出荷先なので、形のキレイな品種を選んでいる。春、秋出荷の年2作体系。収量目標：年間30トン。

4. 経営を開始しての感想

★夫婦で新規参入・感動の初出荷！

「大玉で味の良いとまと」と市場やお客様からの評価を受け、ハウスに直接買いに来てくれるお客様も増え、作る喜びを実感している。

今後も、さび病・ダニなど病害虫の初期防除を行い、病害虫を増やさないことや出荷日に採果することを信条に「基本からはずれない栽培」を心がけていきたいと考えています。

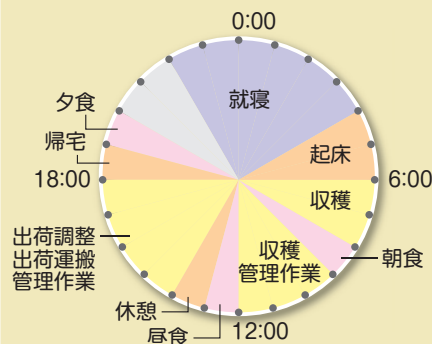
5. 新規参入希望者へのアドバイス

★農業は、いいも悪いも自分次第！

施設園芸は、安定した収量確保が必須。「毎日、手をかけるから必ず採れる。手をかけないから採れない。」そこに、やりがいを感じています。

登米市は、研修段階から市独自の助成事業も多く、就農時までたくさんの支援をいただきました。是非、登米市で、農業にチャレンジを！

一日の生活スタイル



年間の主な農作業スケジュール

月	作業
1月	収穫・植え替え準備
2月	定植
3月	栽培管理（誘引・整枝）
4月	↑ 収穫
5月	
6月	
7月	↓ 植え替え準備
8月	定植・誘引・整枝
9月	↑ 収穫
10月	
11月	
12月	↓

※苗は購入

人生の
軌跡

決意 22歳
会社を退職

研修 22~23歳
震災発生

就農 24歳
結婚

現在 27歳



プロフィール

- 出身地：茨城県日立市
- 就農時期：2006年（当時29歳）
- 就農前の職業等：
大学を卒業後、建設会社に施行管理技師として4年間勤務する。
- 家族構成：本人、妻、子供二人、両親

1. 就農の動機

サラリーマン家庭に生まれたが、小さい頃から農業に興味があり、大学で農業土木を専攻し、建設会社に勤務しました。しかし、いつかは自分で農業をやってみようと思っていました。



2. 就農準備

①地域決定理由

会社勤務をしていたとき、寝る間もなく忙しい日々を過ごしていましたが、花を見ると心が落ち着き、小さい頃、近所にいたシクラメン農家のハウスの風景が、ずっと心を離れず、今しかない就農を決断。会社を退社し、母の実家の宮城県に家族とともに移り住んだ。

②研修 ～研修記録は、今も貴重なテキスト

本格的に研修に入る前に、石巻農業改良普及センターを訪ね、管内の生産状況や農家見学・研修受入先等を紹介された。

研修は、涌谷町の涌谷園芸ファームで1年半行った。研修期間中は、研修先と同じものを自宅に持ち帰り栽培しながら‘週に1度’写真を撮り記録したり、農業の参考書や情報誌を読み、情報収集に励んだ。

また、自分が経営する場合の労力と作業のシミュレーションをよく考えていた。前職の経験が活かされたのかと思う。この時の資料が今も経営のテキストになっている。

研修先は、自宅からも近く、就農後もわからないことがある度に、相談することができた。

③資金・農地・住宅

農地は、祖父の水田（20a）を借り受けし、埋立整地した。

鉄骨ハウスは、市内の農家から中古を譲り受け、解体・移設したので、施設の初期投資を少なくすることができた。これらハウス、暖房機及び1年目の資材の購入費用として、就農施設等資金を利用した。

就農当時は、妻子と公営住宅に住んだが、2011年に家を新築し、現在は両親と同居している。



3. 現在の経営概要と特徴

①主な作目と栽培面積

鉄骨ハウス：10 a
 パイプハウス：5 a
 露地畑：5 a
 栽培品目：鉢花（シクラメン、他）

②主な保有施設・機械

●鉄骨ハウス 1棟 ●パイプハウス 3棟
 ●防除機 1台 ●トラック 1台

③労働力：本人＋妻＋両親

④販売先：市場（仙台・東京・埼玉）出荷9割、直売所1割。

⑤特 徴：品質優先

～2011全国シクラメン品評会最優秀賞受賞！

2014東北鉢物生産組合品評会最優秀賞受賞！！

（受賞写真：P.13右下）

- 春は、多品目栽培。秋～冬は、シクラメンに集中。
- 市場出荷は、前年に予約注文を受けての出荷が中心。

4. 経営を開始しての感想

★市場の声を励みに

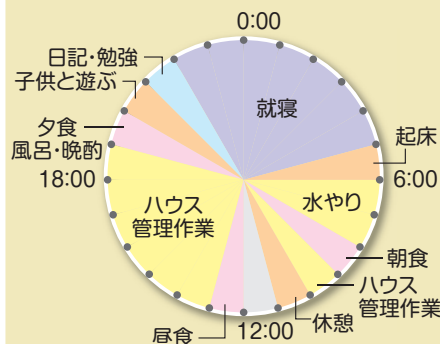
「発色良好で長持ち」との市場評価えて、指名注文の増加に手応えを感じています。ちょっと失敗したかなと思うのは、直売の値段設定が、はじめに安すぎたかも…。後からの値上げは、難しい。（苦笑）

5. 新規参入希望者へのアドバイス

★こだわりを持って、自分らしい農業を！

自分なりに、こだわりを持つことができ、いろいろな事に自分の考えで挑戦できるので、おもしろい職業だと思いますよ！あなたも農業にチャレンジを！

一日の生活スタイル



年間の主な農作業スケジュール

月	作 業
1月	クリスマスローズ出荷 各種植え替え
2月	ホタルカズラ出荷
3月	ベルフラワー出荷 各種植え替え、移動、スペーシング
4月	ラベンダー・ミヤコフスレ出荷 各種株分け・挿し芽
5月	カンパニュラ出荷、草刈り 各種株分け・挿し芽
6月	球根ペコニア出荷 シクラメン鉢上げ、草刈り
7月	ラデングー植え替え シクラメン手入れ、草刈り
8月	シクラメン手入れ、草刈り 各種摘心、スペーシング
9月	シクラメン手入れ 各種摘心、スペーシング
10月	シクラメン出荷・手入れ
11月	シクラメン出荷・播種
12月	シクラメン出荷・播種

人生の
軌跡

決意

27歳
退社

研修

27～28歳
研修
(1年半)

就農

29歳
結婚

転換期

33歳
妻も経営
参画し
規模拡大。

現在

36歳



自分自身と同じくらい、家族も他人も大切に！



プロフィール

- 出身地：宮城県仙台市
- 就農時期：1999年（当時29歳）
- 就農前の職業等：
大学在学中に有機農業での就農を決め、資金確保のため東京で内装大工に3年間従事。
- 家族構成：本人、妻、長女、次女

1. 就農の動機

小学生の頃から趣味だった山登りで、日本の山里が荒廃している現実を知り、「山里で暮らし、農業をしたい！」と思いました。

また、大学で専攻した文化人類学でブータンやネパールを訪れ、その暮らしぶりに魅せられたこと。石牟礼道子氏の著書「苦海浄土」に出会い、社会の末端で、その手足となって働きたいと思ったからです。



2. 就農準備 ～準備は、計画的に・柔軟に！

① 決意した時期・きっかけ

20歳の時、雪山の単独行で遭難したことをきっかけに、命の重さ、尊さに気づき、それらを下支えすることを自分の生業にしたいと思い、就農を決意した。

② 研修・研修地域決定理由

県の就農相談センターに相談したところ、農家研修を勧められ、仙台市秋保の農家で2年間研修を行った。

その間に、仙南地区の市町村を回り、借地・借家の情報を広く求めたところ、村田町の農業委員から情報を頂き、村田町に決定した。

③ 資金・農地・住宅

研修中は、就農支援資金12万円／月を借り入れた。就農後は、研修前に蓄えた自己資金（300万円）のみで対応した。

農地は、当初60aを借り受けし、徐々に拡大していった。当初、口約束で借りていた農地にパイプハウスを建てていたが、地主から電波塔の建設でハウスの移転を求められ、その後、ハウス用地（40a）を別に購入した。

住宅は、就農当時は借家だったが、1年後地元の農業委員の紹介で中古住宅を購入した。



3. 現在の経営概要と特徴

①主な作目と栽培面積

露地野菜：170 a
施設野菜：800m²
自然卵養鶏：（平飼い） 100羽
少量多品目栽培：（年間160品目）

②主な保有施設・機械

●パイプハウス 7棟800m²
●トラクター 1台 ●管理機 1台
●軽トラック 2台

③労働力：本人のみ。（妻は、勤めており経理担当。）

④販売先：全国の飲食店、ホテル、結婚式場など（30店舗）売上の7割、個人の宅配（50戸）3割

販売額：700万円／年。

※有機栽培を始めて5年間位は、商品の品質が安定しなかった中で、顧客の信頼を得、経営を維持していかなければならず苦労した。

⑤特 徴：

- 自然循環型農法の継続。更なる土壌の潜在能力の向上に努め、農産物の品質向上に努めている。
- 新たに有機農業を目指す後進達や村田町で農地を探している人、まだ人生の岐路で悩んでいる人などの相談役に。
- 地元の保育所の食育活動のボランティアや週末菜園など食と農に関心のある方々との交流活動にも参加。

4. 研修受入条件等

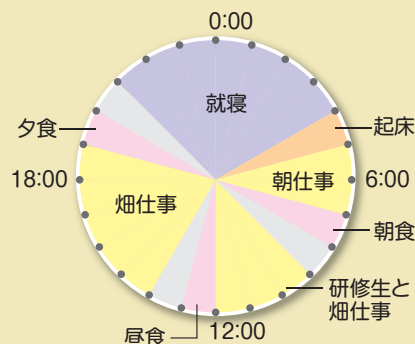
- 受入実績：就農10年目から毎年1人。6名受入。
- 受入可能時期、人数：通年可能（随時）。年1人のみ。
研修は、就農前の1年間のみとする。
- その他：宿泊施設なし、通勤型。食事は、自前で。
※近くの空き家を借りて住むこともできる（家賃2万円位）

5. 新規参入希望者へ一言

★決心したらやり抜く努力を！
継続は力なりです。

- どんな業種でも、「独立」は、大変ハードルが高いもの。他産業からの転向ならば、農業は所得が少ないので、無理な借金はしないこと。
- 少なくとも新しい商売を興すことを自覚し、時代に添った経営感覚を磨くこと。
- 有機栽培の場合は、少なくとも5年間は、腐らず土づくりを地道にこなす「実直さと根性」が必要。目先の利に、心を奪われると忽ち、就農当時のモチベーションを失ってしまうので、要注意を！

一日の生活スタイル



年間の主な農作業スケジュール

月	作 業
1月	出荷は年中
2月	
3月	↑ 春作開始
4月	
5月	↓
6月	
7月	
8月	↑ 秋作開始
9月	
10月	↓
11月	
12月	↓

人生の軌跡





自分でモノをつくり販売する「起業」のおもしろさ！



プロフィール

- 出身地：福岡県
- 就農時期：2005年（当時33歳）
- 就農前の職業等：
高校の商業科を卒業後、会社に就職。主に、営業職として14年間勤務。
- 家族構成：本人、妻、長女、次女

1. 就農の動機

2004年に結婚を機に、会社を辞めて妻の実家である登米市に移住しました。妻の実家では、きゅうりといちご、稲作の複合経営であり、一緒に農業をやる中で、農業のすばらしさを実感。自分で一からモノをつくり販売する喜びを知り、一生続けられる仕事だと感じました。



2. 就農準備 ～ゼロからのトマト栽培への挑戦

① 決意した時期・きっかけ

登米市にきて半年が過ぎた頃、夫婦二人で独立就農を決意した。子供が生まれ家族と一緒に過ごす時間を自分で作れることも、農業を選んだ大きな理由だった。

② 就農相談と農地・栽培施設の確保

就農を決意してから、農業の関係機関に度々相談した。

登米市では、新規就農者の支援制度が充実しており、農業研修施設として養液栽培プラントが設置された鉄骨ハウスや滞在（宿泊）施設が整備されていた。

タイミング良くＪＡで研修ハウスを無償で貸し出しすることになり、すぐに申請し選考に受かり、このハウスを借りて就農することになった。

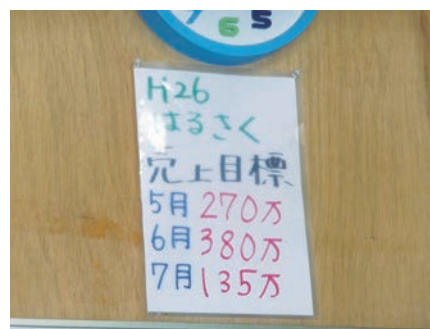
③ 資金・技術・住宅

養液栽培に適した作物として、義父のアドバイスもありトマト栽培に取り組むことになった。

しかし、全くトマト栽培の経験が無かったので、栽培に関する本やインターネットで調べたり、先進農家を訪ねて教えて頂きながらの開始となった。

栽培のポイントは、システムメーカーの技術指導を受けた。トマトは導入事例も多く、比較的マニュアル化された安定した技術であった。

鉄骨ハウスは建設後10年程度経過しており、被覆材の張り替えやプラントの改修に農協から600万円を借り入れた。



3. 現在の経営概要と特徴

①主な作目と栽培面積

施設野菜（トマト専作） 3,000㎡

②主な保有施設・機械

- 鉄骨ハウス（無償リース） 3棟3,000㎡
- 養液栽培プラント 一式
- 動力噴霧機 1台 ●重量選果機 1台

③労働力：本人+妻+パート2名（150日／年）

④販売先：直売所（9カ所）6割、市場（仙台）4割

年間販売額：1700万円

⑤特徴：

- 養液栽培によるトマトの年2作体系。
- 出荷ピークを決めた先読み栽培管理の徹底。
- 月別販売額の設定で、従業員が一体となった目標達成の実現。
- 職業体験受入や独立就農を目指す若い新規就農者の研修受入に力を入れている。

4. 研修受入条件等・受入実績：3名。

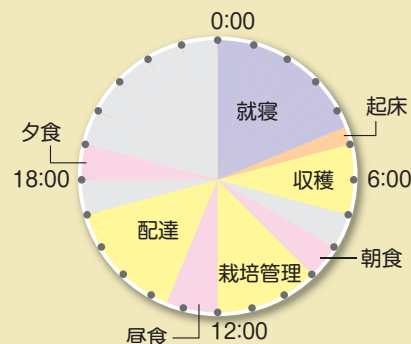
- 受入可能時期、人数：通年可能（随時）
- その他：遠方の方は、市の農業研修滞在施設の利用（自炊）可。
- ◎共に「登米市とまと」のブランドを確立しよう！

5. 新規参入希望者へ一言

★農業は特別な仕事ではない。
一番の失敗は、過剰投資です。

- 農業とは、
楽な仕事ではない。生活と仕事が密着。働いた分だけ見返りがある。どう働けば良いかを考えて行動を！
- 農業者は、
社長であって営業マンであって作業員です。一人で何役もこなす。
- 農村は、
地域とのつながりは、（都会と比べ）非常に多く、その意味では、のんびりした環境ではありません。

一日の生活スタイル



年間の主な農作業スケジュール

月	作業
1月	収穫・植え替え準備
2月	定植
3月	栽培管理（誘引・整枝）
4月	収穫
5月	
6月	
7月	植え替え準備
8月	定植・誘引・整枝
9月	
10月	収穫
11月	
12月	

人生の軌跡

結婚

32歳
登米市に移住

体験

32歳
妻の実家で農業に従事

就農

33歳

転換期

38歳
研修生の受入

現在

42歳
家を新築



自立した農業経営を目指して！



プロフィール

- 出身地：埼玉県
- 就農時期：1993年（当時32歳）
- 就農前の職業等：
大学の農学部を卒業後、種苗会社勤務を経て埼玉県職員として、農業改良普及所など8年間勤務。
- 家族構成：本人、妻、（子供3人）

1. 就農の動機

農学部を卒業後、農業関係の仕事を経験し、農業者のサポートではなく、自らも同じ立場に立って、地域と関わりながら農業を実践したいと思ったからです。



2. 就農準備 ～地域に飛び込んで、自分の想いを伝える

① 決意した時期・地域決定理由

30歳を迎え、自分で農業をしたいと思っていた頃、学生時代の先輩から、角田市農協青年部の人達を紹介された。そのことが、きっかけで、この人達と一緒に農業をしたいと思い、就農を決意した。

② 研修

就農前の勤務経験で知識と技術はあったので、営農と平行して技術習得していけると考え、就農前の研修を行わなかった。

しかし、実際は思っていた以上に、気象の違いによる栽培管理や病虫害対策など栽培技術を安定させるには時間を要した。

③ 資金・農地・住宅

移住するにあたり自分の就農への気持ちを理解して貰うため、何度も角田市を訪問した。次第に理解を得、住居や農地探しなど協力を受けた。

資金は、預貯金と退職金を経営開始資金に充てた。開始時期の機械（中古トラクター、中古軽トラック、管理機）購入に、約100万円程度かった。

農地は、当初は、自宅周辺に増やしたが、市内平坦部に集約し、土壌も阿武隈川の肥沃な土地であり非常に生産性が上がった。

パイプハウスの導入には、就農後、JAトマト部会に加入し、県の補助事業やJAリース事業を活用し徐々に拡大した。

住宅は、当初空き家を借りたが、現在は、購入し改築を行い暮らしている。



3. 現在の経営概要と特徴

①主な作目と栽培面積

露地野菜：60 a
 ブロッコリー、ねぎ 他
 施設野菜：2,640㎡
 トマト、ハウレンソウ 他
 トマトを中心に野菜40品目

②主な保有施設・機械

●パイプハウス 12棟2,640㎡
 ●トラクター 2台 ●管理機 3台
 ●軽トラック 1台 ●動力噴霧器 1台

③労働力：本人＋妻＋パート1人。

④販売先：直売所、JA経由みやぎ生協、宅配（個人宅・店舗）等 販売額：1000万円／年。

⑤特 徴：

- 減農薬・減化学肥料栽培で「宮城県環境に優しい農産物等表示認証」を受けた野菜生産と無農薬栽培による野菜の多品目栽培を行っている。
- 角田市の「あぶくま農学校」や全国新規就農相談センターの「農業インターンシップ」の農家体験受入を行っている。
- 平成20年2月に販売チャンネルの拡大を目的に、専業農家12戸で「合同会社あぐりっとかくだ」を設立し、秘伝豆生産や直売施設、加工施設、レストラン施設を運営している。

4. 研修受入条件等

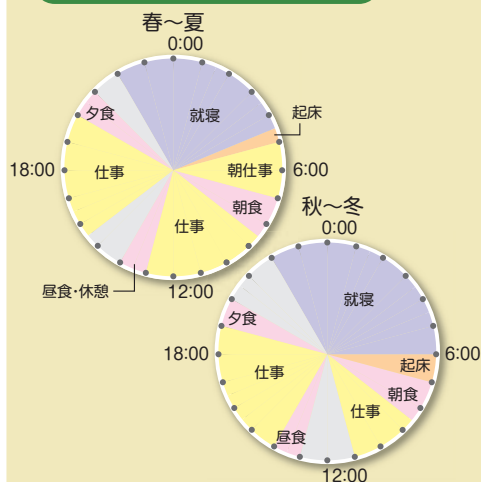
- 受入実績：年2人程度。
あぶくま農学校、農業大学校研修生等→のべ30人位。
インターンシップ（平成25年度～）→2名。
- 受入可能時期、人数：通年可能（随時）。
インターンシップ受入可能期間は、2週間まで。
- その他：宿泊施設経営者宅または通勤型。
食事は、経営者家族と一緒に。

5. 新規参入希望者へ一言

★覚悟と決意を持って。
ひとつひとつ解決する楽しさを。

- 農業情勢はいつも厳しい。その上で取り組むのだから、周りの人は、全てを見ている。覚悟と決意を持って、様々な問題をひとつひとつ解決することは楽しさもある。それ故、内にこもることなく、前向きに楽天的に生活してきました。
- 農業は、自営業者で、経営者。自分で決断し、責任を持つ自覚が必要。
- 一人では何もできません。理解者と応援者を作ることが必要。そのためには、自分の想いを伝える力がないとダメだと思います。

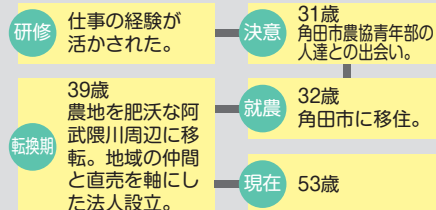
一日の生活スタイル



年間の主な農作業スケジュール

月	作 業
1月	出荷は年中
2月	播種（トマト）
3月	葉物随時播種収穫
4月	
5月	
6月	↑ トマト収穫
7月	
8月	播種（秋冬野菜）
9月	↓
10月	↑ 収穫
11月	ハウス補修・点検 土づくり
12月	↓

人生の軌跡





丸森から全国へ、花の苗を届けています！



プロフィール

- 出身地：滋賀県
- 就農時期：2003年（当時35歳）
- 就農前の職業等：
農学部を卒業後、コンサルティング会社や運送会社勤務を経て蔵王町の(有)グリーンアトリエひらきゅうに5年間勤務。
- 家族構成：本人、妻

1. 就農の動機

以前からハーブに興味があり、運送会社に勤務時代に紹介されたハーブ苗を生産する宮城県の農業法人に勤務した。当初は、独立は考えていませんでしたが、3年半が過ぎた頃から転職の一つとして、自分の判断で挑戦する独立就農を考えるようになりました。



2. 就農準備 ～相談できる友人・仕事仲間に助けられて

① 決意した時期・きっかけ

就農する1年前、就農の道を模索するなか、周囲の人に相談したところ、自分で農業を開始した時の「売り先」が確保できる見通しがつき、就農を決意した。

② 研修

農業法人での5年間で、生産管理や販売・営業、商品開発など一連の仕事を経験した。しかし、いざ就農してみると、想像と違うことや栽培経験の無い新品目の栽培などまどうことが多く、プロと呼ばれる農業者を訪ねアドバイスを受けながら技術習得をしていった。

③ 農地・資金・住宅

退職前から、就農準備を進め知人の紹介で丸森町の借家を借り移住しながら農地を探した。退職時点でも見つからず、困っていたところ、友人の奥さんの実家から農地63aを借りられることになった（農業経営基盤強化法による利用権設定）。9年後、役場の紹介で、現在の場所に土地を購入し、移転した。この移転によるハウス建設中に東日本大震災が発生した。資金は、経営開始にあたり自己資金を500万円と経営開始時のハウスの建設のため農業近代化資金300万円借入れした就農2年目～8年目まで国民生活金融公庫（※）を活用し、徐々にハウスの規模拡大を行った。

④ 法人化へ

震災により福島県南相馬市の取引先が被災し、自家生産ができなくなり代わりに生産してほしいとの要請があったのをきっかけに、規模拡大し平成25年1月に法人化を行なった。



※国民生活金融公庫：2008年10月まで存在。現在は、(株)日本政策金融公庫に業務移管。

3. 現在の経営概要と特徴

①主な作目と栽培面積

施設花き（花苗専作）
施設栽培（苗物）5,200㎡
露地栽培（根株）165a
※宿根草を中心に300種類生産。

②主な保有施設・機械

●パイプハウス 22棟5,200㎡
●出荷場、倉庫、軽トラック、トラクター、掘取機、ミキサー、フォークリフト、ポッティングマシン、梱包機、管理機 他

③労働力（従業員）：通年雇用（正社員）8名＋臨時雇用9名

④取引先：大森プランツ(株)・福島県、横浜植木(株)・神奈川県、(株)ポタジェガーデン・東京、(株)日園・新潟

⑤納品先：ほぼ量販店向け（一部、直売所や種苗会社の通信販売あり）。

販売額：5,200万円／年（平成26年度見込み）

⑥特徴：

- 全国でも数少ない、宿根草（多年草で、毎年花をつける植物）メインの生産者として、通年多品種栽培と新商品開発にも取り組んでいる。
- 農場から直接、宅配便を利用して全国の店舗へ鮮度の高い苗を直送。
- 契約栽培、委託栽培の比率が高く、ほぼ市場出荷はない。

4. 研修受入条件等

●受入実績：1名。

採用前のアルバイト、高校生の体験研修受入可。

●受入可能時期、人数：通年可能（随時）、1～2名／時期。

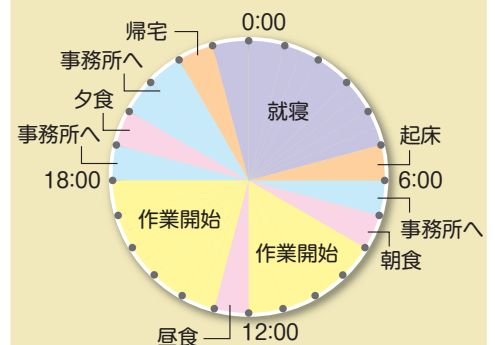
●その他：夏場の作業は、体力を要するので要意願います。
宿泊施設なし。通勤型。食事は、自前で。

5. 新規参入希望者へ一言

★技術の習得と同じくらいに
販売先の確保が大事です。

- 好きな仕事で生き甲斐でもあるので、忙しくても楽しく感じている。また、農業は自分の裁量で経営できることが魅力である。
- 就農にあたり技術習得は第一であるが、1～2年の研修で修得するのは不可能。就農後も変化に応じて修得していくものです。
- 技術と同じくらい売り先の確保も大事。市場出荷だけでは価格が安定しないため、特に市場外流通に関する知識と人脈の確保が重要です。
- 生活面では、生産物が販売できるまでの期間の生活費の確保は必須で、1～2年は、無収入でも生活できる位の蓄えが必要です。

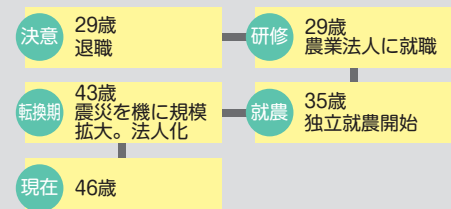
一日の生活スタイル



年間の主な農作業スケジュール

月	作業
1月	植え込み（ポット）
2月	
3月	出荷
4月	
5月	
6月	植え込み（畑）
7月	草取り
8月	植え込み（ポット・畑）
9月	出荷
10月	
11月	掘り取り
12月	

人生の軌跡





ふるさとで再出発！農業の6次化に挑戦！



プロフィール

- 出身地：宮城県登米市
- 就農時期：2008年（当時34歳）
- 就農前の職業等：高校を卒業後、東京でフランチャイズ関係の店舗開発や商品開発の仕事に従事していた。

1. 就農の動機

会社員時代は、レストランやホテルとの商品開発等の仕事に係わっていたことから「食」に対して強い関心がありました。

東京での暮らしは、充実もしていましたが、時間に追われる毎日でした。

いつかは、田園風景のある実家の栗原市で暮らしたい。そこで、生産だけでなく「6次化」を取り入れた農業関係の仕事をしたと考えていました。



2. 就農までの経緯 ～ふるさとの魅力を再確認

① 決意した時期・就農先との出会い

2007年秋、両親の高齢化もあり実家への帰省を決意。

帰省し就職活動を勧める中、(有)伊豆沼農産を知った。

「農業を食業に変える」を原点に、ハム加工やレストラン経営、食農・環境教育まで、すでに6次化や付加価値型農業を行っている会社に共感し、知人を通じて面接を依頼した。

② 就農前の農業体験や研修

実家は、水稻単作農家で農繁期の手伝い程度で、本格的な農作業の経験は無かったが、これまで行ってきた商品開発の仕事が活かせるのでは？と考えていた。

③ 就職先決定理由

登米市は、農業が主産業。冬には、伊豆沼・内沼などに多くの渡り鳥が飛来し、環境への意識も高い。

これら「人・もの・環境」の価値を活かし、農村を丸ごと売り込む新しい産業（農村産業）の実現を目標としているこの会社で働きたいと思った。



3. 会社の経営概要と特徴

「農業を食業に変える」～精いっぱい地域の人と自然の恵みに感謝します

①主な作目と栽培面積

水稻：3 ha 養豚：1,000頭
果樹：(ブルーベリー) 30 a
露地野菜：(レストラン用) 30 a 飼料作物：50 a

②主な保有施設・機械

●ハム・ソーセージ加工場576.21㎡
●レストラン362㎡ (100名収容)
●直売所 736㎡ ●トラクタ、モア ほか

③法人設立：平成元年5月1日

④従業員：39名 (内正社員17名)

■主な販売先と年間販売額：

(株)三越伊勢丹、みやぎ生協、香港そごう 他
自社販売 (直売所、レストラン、通信販売 他)

年間販売額：4億7千万円

■特徴

- 「食業」とは、付加価値型農業の総称。生産から加工、販売、食卓まで、総合的に地域と関わりながら「農村産業」の実現を目指している。
- 「伊達の純粋赤豚」は、伊豆沼農産登録商標。
- 食農・環境教育への取り組み→手作りウインナー教室、ブルーベリーつみ取り体験、伊豆沼まるごと体験など。

4. 就農しての感想

初年度、水稻の仕事中心に生産技術を仕込んでいただき、徐々に企画・経営管理にシフトしていきました。(平成25年3月に就農5年で、役員常務に就任。)

当社では、農業法人協会に加入し、全国の農業法人との交流も盛んで良い刺激を受けています。役員となり、地域の良さを見つめ直す機会や商品は、地域の「人・もの・環境」が織りなす物語であり、新しい企画のやりがいと責任を感じています。

5. 新規参入希望者へ一言

★自分の目標をしっかりと持つことが大事です！

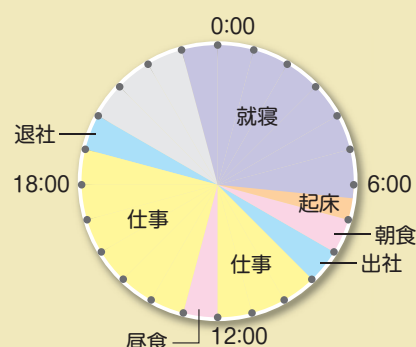
基本的に、やらなければいけないことは、どの業種も同じで、「現状の把握と問題解決」が必要です。

それぞれの持ち場で、いろいろな角度から物事を見て行動を。

当社では、女性や若い農業者の採用にも力を入れています。

「新・農業人フェア」での採用者や新規学卒の採用者も活躍しています。

一日の生活スタイル



HP会社概要～伊藤社長からのメッセージ

(一部抜粋)

今、時代はファーストからスローへと完璧に向かっていきます。

食べ物では、ファーストフードからスローフード、暮らしは、都会の雑踏より田舎の自然、無限より限定、便利すぎるより少し不便な方が、何となく世の中のありがたみに気づくことが多いでしょう。

もっと、ゆっくり地元を歩いてみれば、見過ごしがちなすばらしい「自然」や古老の「人財」が、そこにもあそこにも一杯発見できるはずですよ。

人生の軌跡

決意

33歳
帰省を決意。
農業の6次化
を模索

就農

34歳
南伊豆沼農産
へ面接を依頼。

現在

40歳
常務取締役兼
企画室長として
地域活性化
事業に着手。



大事なものは継続性！全力より60〜80%で頑張る。



プロフィール

- 出身地：宮城県白石市
- 就農時期：2009年（当時25歳）
- 就農前の職業等：
宇都宮大学教育学部を卒業後、「みどりのふるさと協力隊」に応募し、静岡県の地域興しボランティア活動に参加。その後、宮城県にUターンする。

1. 就農の動機

大学時代、教育学部在籍し社会科地理を専攻。その頃から、環境問題や食糧問題に関心がありました。しかし、問題の実感がなく教員になるための経験として参加した‘地域興しボランティア’の派遣先で、農業人口の高齢化と食の大事さを目の当たりにし、ショックを受け「何とかできないか…」と思ったからです。



2. 就農までの経緯 ～農業の生産現場から地球環境を守る！

① 決意した時期・就農先との出会い

NPO法人地球緑化センター主催の地域興しボランティア活動の中で、食料生産だけではなく環境を守る農業の仕事に関わりたいと思い、ふるさとの宮城県に帰った。

まず、当時、新規就農相談を行っていた‘みやぎ農業担い手基金(※)’に相談して、水田と大豆を生産している農業法人の紹介を依頼した。1ヶ月ほどして、(有)大郷グリーンファーマーズを紹介され面接後、平成21年5月に採用された。(3ヶ月間は、研修生として)

② 就農前の農業体験や研修

地域興しボランティアで訪れた静岡県伊豆市で、農業の生産現場に始めて触れ、1年間わさび、大豆、水稻、しいたけの栽培を経験した。

③ 就職先決定理由

大郷グリーンファーマーズは、広い敷地に鶏を放し飼いし、遺伝子組む換えやポストハーベストフリーの原料を配合した餌やミネラルを多く含むBM活性水を与えて育てている。

ここからでる鶏の糞を利用した「自家製ボカシ肥」を利用し化学肥料をできるだけ使用しない農法を行っていた。

環境に配慮した資源循環型の農業生産スタイルに共感し、ここで働きたいと思った。



※みやぎ農業担い手基金は、平成24年3月(社)宮城県農業公社と合併し、現(公社)みやぎ農業振興公社に業務移管しています。

3. 会社の経営概要と特徴

「私たちは、真心と美味しさと安心をお届けします！」

①主な作目と栽培面積

水 稲：46ha 大 豆：20ha
野 菜：(レタス他) 2ha
採卵鶏：2,500羽

②主な保有施設・機械

●ライスセンター 1棟
●精米プラント 1式 ●コンバイン
●トラクター ●各種管理機

③法人設立：平成11年4月1日

④従業員：16名

※生産は、土地利用課、園芸課、養鶏課の3部門に分かれ、現在、私は、土地利用課の主任を務めている。

⑤主な販売先と年間販売額：

あいコープみやぎ、イオン富谷、イオン中山
雁音農産開発(有)、直売所「郷の市はいらいん」 他
販売額：1億3千万円/年

⑥特 徴：

- 生産面を担う「大郷みどり会」栽培約定により生産・加工した農産物を当社が全量委託販売する組織体制になっている。
- 資源循環型農業の実践
→安全な飼料で育てた採卵鶏の糞や米ぬかなど地域の未利用資源を用いた「自家製ボカシ肥」の活用
- 県認証制度への取り組み
→特別栽培米の認証を受けたブランド米「郷の稔」
- 環境への配慮
→農薬の使用をできるだけ減らすため、BMW活性水プラントを設置し、鶏の飲み水や野菜に散布
- 消費者の皆さんに「生産現場を知ってほしい！」→交流会開催

4. 就農しての感想

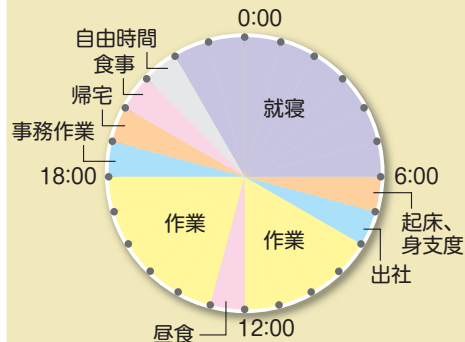
心身共に大変(失敗しまくり、怒られまくり)ですが、日々自然の偉大さを実感しています。異常気象の中でもたくましく育つ作物。おひさま一つで作物が変わる姿を見て、生かされていることを感じます。仕事では、平成22年に担当した水田の収量が、社内では1番だった時が嬉しかったです。

5. 新規参入希望者へ一言

★同じ目標に向かって、話し合うことが大切です

自分の心身のバランス、感覚、つながりを大事にして取り組んでいって下さい。会社の組織の中で働いているので、部門別にスペシャリストになることを求められる。仲間とは、一つの作業も「どうしていききたいのか」をお互いの意見を交換しながら共に考えて行くように心がけています。

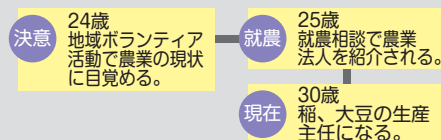
一日の生活スタイル



年間の主な農作業スケジュール

月	作 業
1 月	機械整備
2 月	営農計画作成、種子準備
3 月	温湯消毒、肥料散布、耕起
4 月	播種、肥料散布
5 月	代かき、田植え
6 月	大豆播種、草刈り
7 月	追肥、草刈り、忌避剤散布
8 月	大豆草刈り、忌避剤散布
9 月	草刈り、稲刈り
10 月	稲刈り
11 月	大豆収穫、秋耕起
12 月	大豆収穫、田直し

人生の軌跡



1. 平成25年度の新規就農者数 179名（うち認定就農者12名） (H25. 4. 1～H26. 3. 31)

2. 新規就農者の推移

年度	新規学卒就農者						Uターン 就農者	新規 参入者	合計
	高校卒	短大卒	宮城県 農大卒	大学卒	その他	小計			
元	5	7	10	1	5	28	4	—	32
5	4	7	17	1	2	31	9	—	40
15	4	8 (6)	13 (11)	3 (3)	3	31 (20)	42 (3)	1	74 (23)
20	72 (2)	1 (1)	28 (25)	2 (2)	0	38 (30)	34 (1)	8 (1)	80 (32)
21	5	1 (1)	16 (8)	2 (1)	0	24 (10)	37 (11)	36 (5)	97 (26)
22	4 (1)	1	7 (3)	3 (1)	5 (1)	20 (6)	35 (4)	47 (3)	102 (13)
23	6	1 (1)	15 (6)	4	2 (2)	28 (9)	17 (3)	68 (4)	113 (16)
24	10	0	16 (3)	9 (2)	3 (1)	38 (5)	54	80 (5)	172 (11)
25	3	1 (1)	13 (3)	8 (1)	5 (1)	30 (6)	37 (2)	112 (4)	179 (12)

(注) ・平成25年度調査は平成25年4月1日から平成26年3月31日就農者を対象
 ・平成9年度までは40歳未満を、10年度から17年度までは55歳未満を、18年度は60歳未満を、19年度からは65歳未満を調査対象とした。
 ・() 内の数値は、新規就農者のうち認定就農者の人数。(就農計画は県知事が認定)
 ・新規学卒就農者のうち他県の農大卒、専門学校卒はその他に含む。

3. 新規就農者の動向

- (1) 県全体の新規就農者数は179人で、前年比で7人の増となった。年代別では10、20歳代が93人（前年度84人）、30歳代は53人（前年度65人）、40歳代は27人（前年度19人）となり、30歳代で減少し、それ以外の年代で増加した。
- (2) 新規学卒就農者は30人（前年度38人）、うち宮城県農業大学校卒業者が13人（前年度16人）となり、前年度より減少した。
- (3) Uターン就農者は37人（前年度54人）で、前年度より減少した。
- (4) 新規参入者は112人（前年度80人）で、前年度より32人増加した。新規参入者は、農の雇用事業（被災者向け農の雇用事業等も含む）等の雇用対策を活用した法人等への雇用により増加している。

4. 男女別・年代別就農者数

	男	女	10代	20代	30代	40代	50代以上
新規学卒就農者	21	9	4	26			
Ｕターン就農者	31	6		15	12	8	2
新規参入者	89	23	2	46	41	19	4
計	141	38	6	87	53	27	6

5. 農業改良普及センター別新規就農者数

普及センター	新規学卒	Ｕターン	新規参入	計
大河原	8	7	10	25
亘理	4	1	16	21
仙台	6	8	31	45
大崎	0	7	4	11
美里	5	5	8	18
栗原	0	3	18	21
登米	3	2	13	18
石巻	4	4	10	18
本吉	0	0	2	2
計	30	37	112	179

6. 自営就農・雇用就農の別

区分	新規学卒	Ｕターン	新規参入	計
自営就農	9	22	18	49
雇用就農	21	15	94	130
計	30	37	112	179

7. 新規学卒就農者の内訳（30人）

(1) 学校卒業後すぐに就農したもの：24人

宮城県農大卒10人、短大卒2人、大学7人、高校3人、その他2人

(2) 研修後に就農したもの：6人

国内研修3人（うち宮城県農大卒2人、短大卒1人）

海外研修3人（うち宮城県農大卒1人、短大卒1人、大卒1人）

8. Ｕターン就農者（37人）、新規参入者（112人）の内訳

(1) Ｕターン就農者の就農経緯

在宅離職（他産業の職場に自宅から通勤していた者が離職し、就農）20人

他出離職（他産業への就職等で一旦家を離れた者が家に戻り、就農）10人

不明 7人

(2) 新規参入者の出身地

県内66人、県外18人（青森県1人、岩手県2人、山形県1人、福島県3人、埼玉県1人、千葉県1人、東京都4人、神奈川県1人、静岡県1人、大阪府2人、国外1人）、不明28人



発行

公益社団法人みやぎ農業振興公社 (宮城県青年農業者等育成センター)

〒981-0914

宮城県仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

(宮城県仙台合同庁舎9階)

TEL:022-275-9192 FAX:022-275-9195

平成27年2月作成